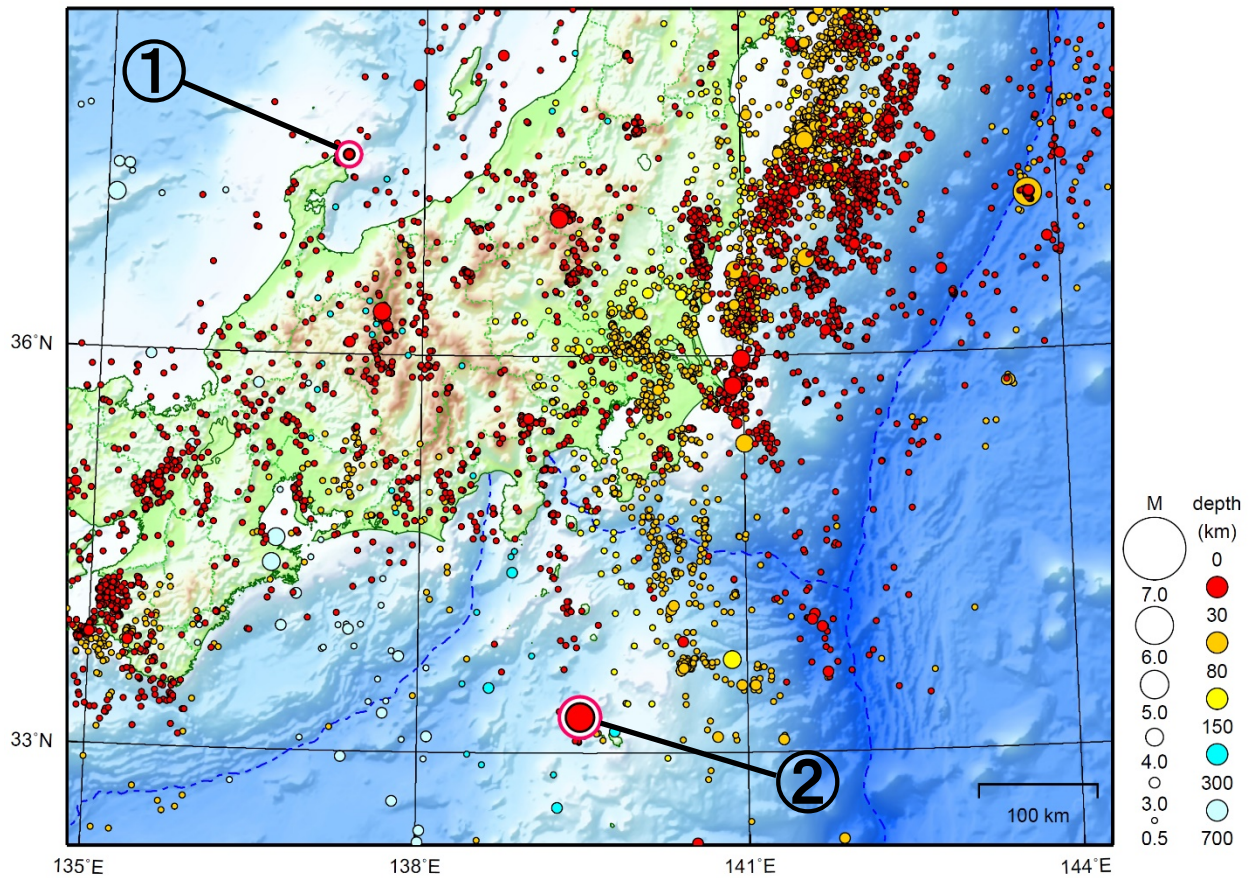


関東・中部地方

2021/07/01 00:00 ~ 2021/07/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 7月11日に石川県能登地方で M3.9 の地震（最大震度 4）が発生した。
- ② 7月16日に八丈島近海で M5.4 の地震（最大震度 4）が発生した。

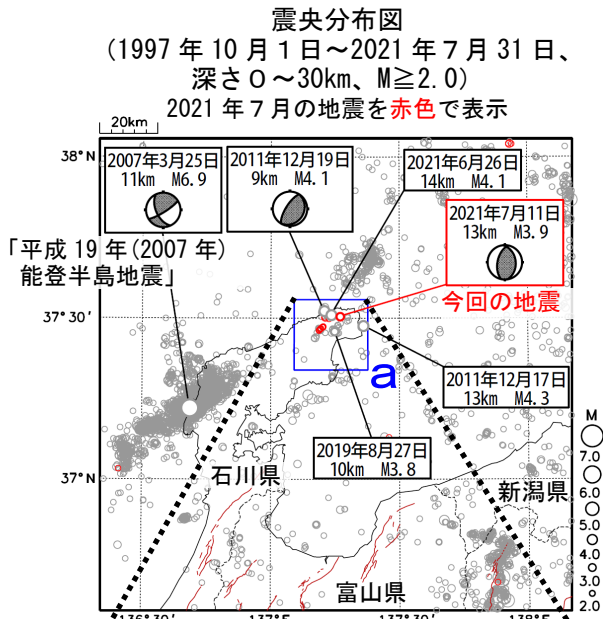
（上記期間外）

8月4日に茨城県沖で M6.0 の地震（最大震度 3）が発生した。

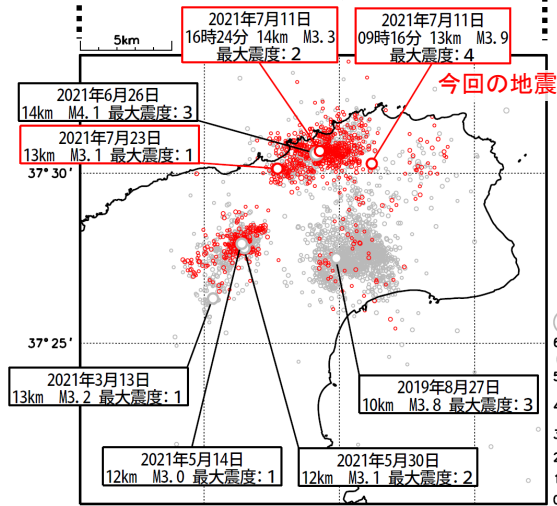
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

7月11日 石川県能登地方の地震

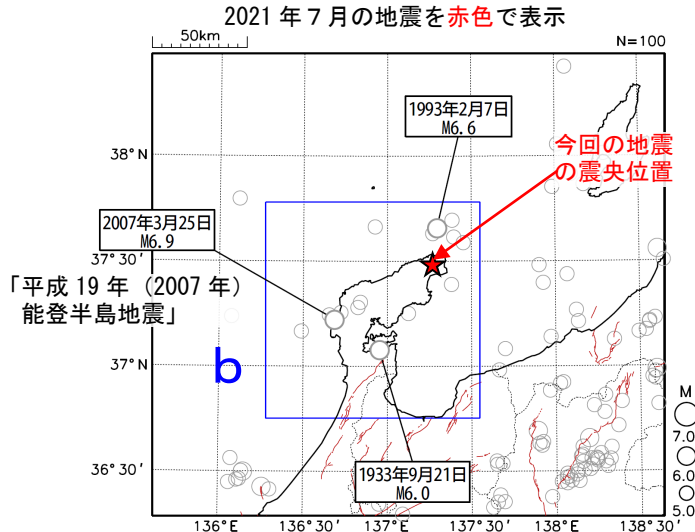


(2018年1月1日～2021年7月31日、
 $M \geq 0.5$)



震央分布図

(1919年1月1日～2021年7月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 5.0$)
2021年7月の地震を赤色で表示



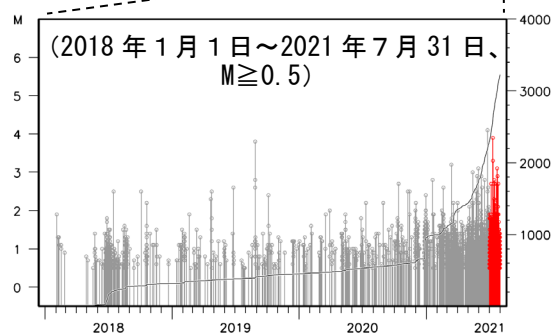
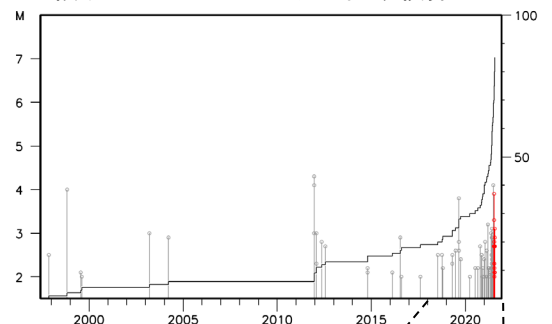
茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による
活断層を示す。

2021年7月11日09時15分に石川県能登地方の深さ13kmで $M3.9$ の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

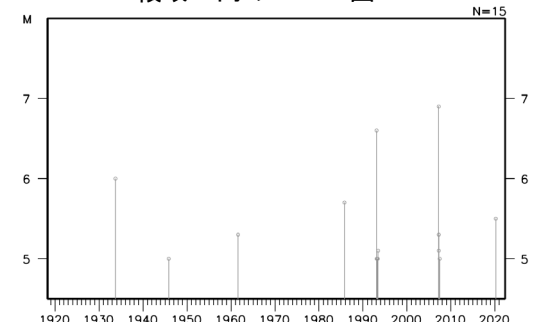
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では2011年12月17日に $M4.3$ の地震（最大震度3）が発生したほか、2018年頃から地震回数が増加傾向にあり、2020年12月からより活発になっている。2021年6月26日には $M4.1$ の地震（最大震度3）が発生した。2020年12月から2021年7月末までに震度1以上を観測した地震は16回（震度4：1回、震度3：1回、震度2：3回、震度1：11回）発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、 $M5.0$ 以上の地震が時々発生している。2007年3月25日には「平成19年（2007年）能登半島地震」が発生し、死者1人、重軽傷者356人、住家全半壊2,426棟などの被害を生じた（総務省消防庁による）ほか、石川県珠洲市で22cmの津波を観測した。

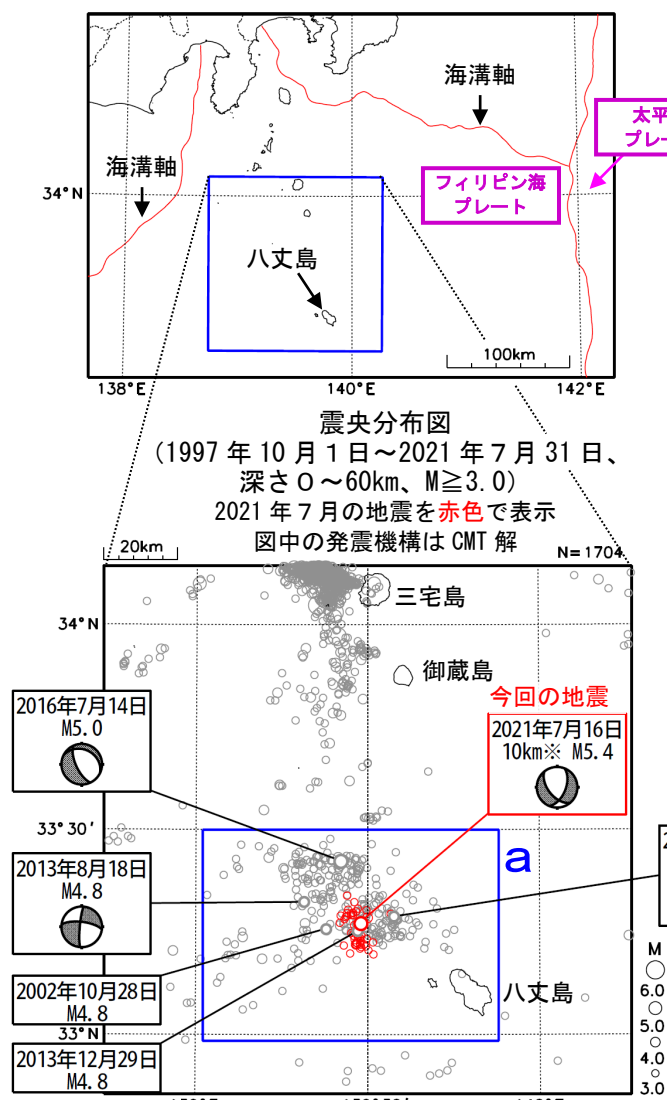
領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図

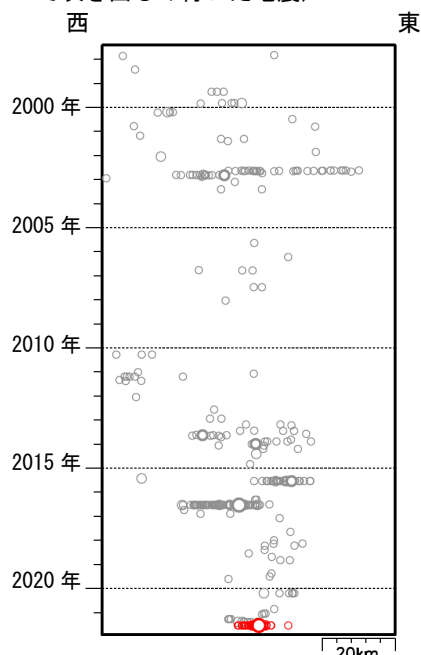


7月16日 八丈島近海の地震



※深さはCMT解による

領域a内の時空間分布図（東西投影）
(シンボルが白抜きのは地震は、上の震央分布図で吹き出しの付いた地震)

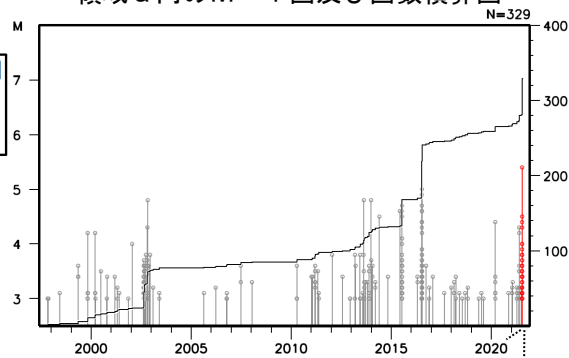


2021年7月16日13時19分に八丈島近海の深さ10km (CMT解による) でM5.4の地震(最大震度4)が発生した。この地震はフィリピン海プレート内で発生した。この地震の発震機構は東西方向に張力軸を持つ型であった。

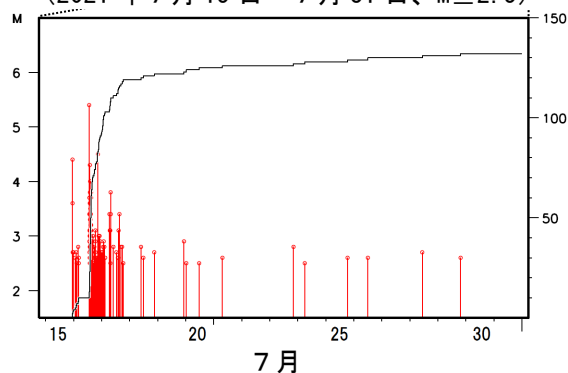
今回の震央付近(領域a)では、2021年7月15日から17日にかけて震度1以上を観測する地震が14回(震度4:1回、震度2:3回、震度1:10回)発生した。この地震活動は、7月18日以降、低調に推移している。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域a)では過去に何度かまとまった活動が発生している。2002年8月～11月の活動では、地震活動は初めに八丈島付近で始まり、その後西移動し、全体で震度1以上を観測する地震が36回発生した。その他にも、2015年7月の活動では全体で11回、2016年9月の活動では全体で6回の震度1以上を観測する地震が発生した。

領域a内のM-T図及び回数積算図



(2021年7月15日～7月31日、 $M \geq 2.5$)

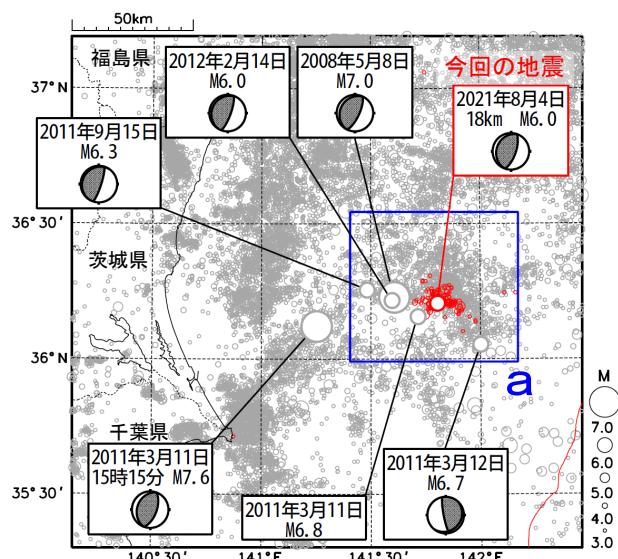


震度1以上を観測した地震の日別震度別回数
(2021年7月15日～17日)

(八丈島近海)	震度1	震度2	震度3	震度4	合計
7月15日	2	0	0	0	2
7月16日	7	3	0	1	11
7月17日	1	0	0	0	1
合計	10	3	0	1	14

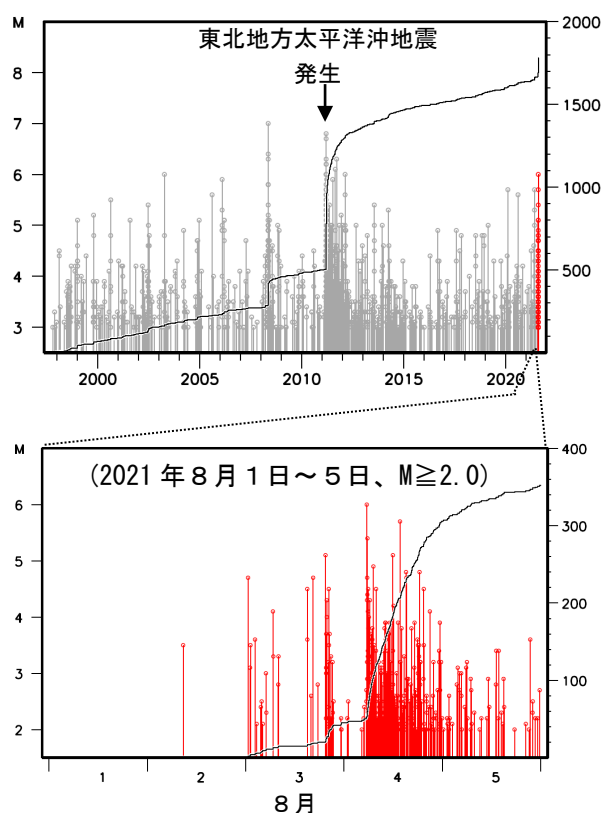
8月4日 茨城県沖の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2021年8月5日、
深さ0～120km、 $M \geq 3.0$)
2021年8月の地震を赤く表示
図中の発震機構はCMT解



赤線は海溝軸を示す。

領域a内のM-T図及び回数積算図

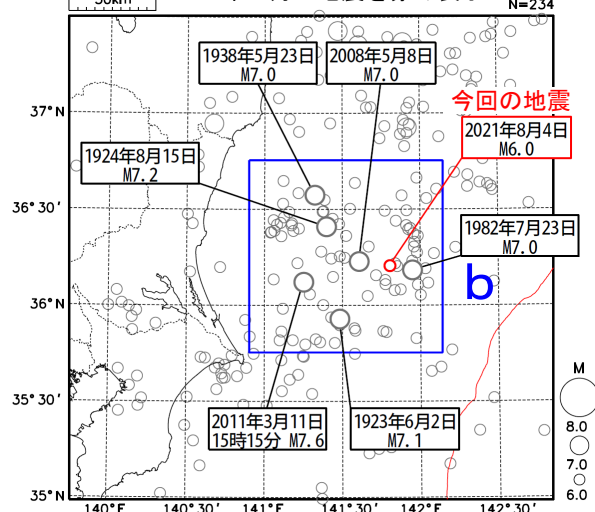


2021年8月4日05時33分に茨城県沖の深さ18kmでM6.0の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。今回の震央付近(領域a)では、2021年8月3日から8月4日までに震度1以上を観測する地震が14回(震度3:1回、震度2:4回、震度1:9回)発生した。

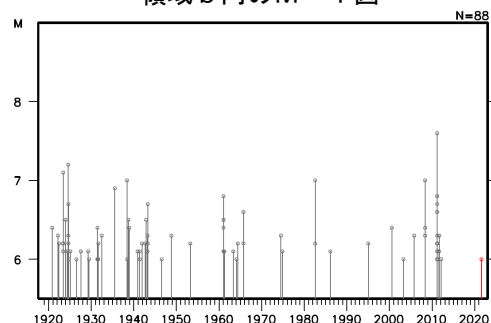
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域a)では、M5.0以上の地震が時々発生している。また、2008年5月8日にM7.0の地震(最大震度5弱)が発生し、負傷者6人などの被害が生じた(総務省消防庁による)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M7.0以上の地震が時々発生している。このうち、2011年3月11日15時15分に茨城県沖で発生したM7.6の地震(最大震度6強)は、東北地方太平洋沖地震の最大余震である。

震央分布図
(1919年1月1日～2021年8月5日、
深さ0～120km、 $M \geq 6.0$)
2021年8月の地震を赤く表示



領域b内のM-T図



気象庁作成